

## 才能

テレビや新聞では十代から才能を発揮して世界を相手に活躍している若者が多くいる。サッカーでは久保建英選手が名門サッカークラブでしのぎを削っている。将棋界では藤井聡太二冠がデビューから無敗で二十九連勝という歴代最多連勝記録を更新した。他にも、文学や音楽などの世界でも活躍していることはよく耳にする。

このように若い世代が活躍すると、多くの人は才能があつて羨ましいという気持ちになる。若くして自分の生きる道を見つけて、世の中に注目されるまでの存在になれるひと握りの存在である。

英語で才能を意味する言葉として「talent」や「gift」という単語がある。これは、先天的な類稀なる才能を意味している。さらに「ability」という単語もある。これは、後天的な努力で身に付けた才能としても使われることがある。

「才能がない」とも、一個の才能。これは、通称ホスト界の帝王、ローランド氏が卒業スピーチで話した言葉である。十八歳からホストとして働くも、上手くいかないことの連続ばかりで、それでもどうしたら喜んでもらえるか試行錯誤を重ねたそうである。当時を振り返り、「才能がないからといって、きつと仕事にやっ

ん向き合つことができた」と前向きに語り、才能がなくてよかったとすら話していた。

人は才能を手にする、それに頼りつばなしになってしまう。また、才能をあてにすると、紆余曲折なく、すんなりと夢を叶えてしまうかもしれない。一見、いいことなのかもしれないが、振り返ってみると何とも味気ない人生になってしまうような気がする。ローランド氏の言葉を反芻するほど、夢に向かう過程が人生を豊かにするように思えてくる。ローランド氏といえばビッグマウスが代名詞であるが、それは彼なりに努力をして、才能とともに自信も身に付けていったからだろう。

今活躍している人の大半は、後天的な努力によって才能を手に入れた人だと思ふ。著書やインタビューを見ても、発想や努力で苦難を乗り越えてきたエピソードが載っている。よくスポーツ界や芸能界で何年に一人の逸材という言葉が新聞の紙面を賑わすときがある。憧れる反面、この言葉のプレッシャーに耐えなければならぬ時もあるのだから。だから、単に才能だけでなく、苦難と失敗を乗り越えて才能と自信をもつことが、大切なかもしれない。学校には若い才能の原石が多くいる。一緒に努力を積み、苦難を乗り越えて切磋琢磨していききたいものである。

## 主張 北辰

一年が過ぎようとしている。収束の兆しはまだ見えない。世界中の様々な機能が停止した一年であった。

関根学園でも四月の休校、そして五月の分散登校、ようやく六月の学校再開、感染予防を徹底した中での学校生活、体育祭や学園祭の中止、対外的な行事の見送り、百一周年を迎える今年、初めて直面した事態である。

学校再開後、直近の秋の県大会では、男女バレーボール部がベスト4、男子バスケットボール部のベスト8、そして野球部の北信越大会での対敦賀気比戦。これまで鍵の掛けられていた想いが爆発したような試合ばかりであった。十月下旬に行われた今年初の生徒会行事であるスポーツ大会、まるで渴きが力に変わったように、三年生をはじめ、大いに盛り上がった。

越後上越はコロナにや折れぬ  
関根健児の意気で克つ。

生徒の気概に圧倒された。  
いま子どもたちは何を感じているのか、そして我々教職員は何を考えるべきなのだろうか。

先日、ふと家でテレビをみていると、あるコマースナルに惹きつけられた。ある清涼飲料水のCMである。高校生がそれぞれの自宅の部屋で、それぞれが好きなように

歌い動き踊る。「僕だけの歌を歌わせてくれ 今しかない この一瞬は 今を生きている 僕らの歌 今だ 今だ 今なんだ 歌おう 僕らの歌」。画面いっぱいにして叫んでいた。どんなにきれいに整った映像よりもココロに届いた。作為の表現が無為な情熱にはかなわないと痛感した。

二期が始まってから、青春という言葉が動詞であるような気がしてならない。少なくとも、青春を生きている生徒たちは皆、極めて動的で情熱に溢れている。そう感じられる場面がたくさんあった。

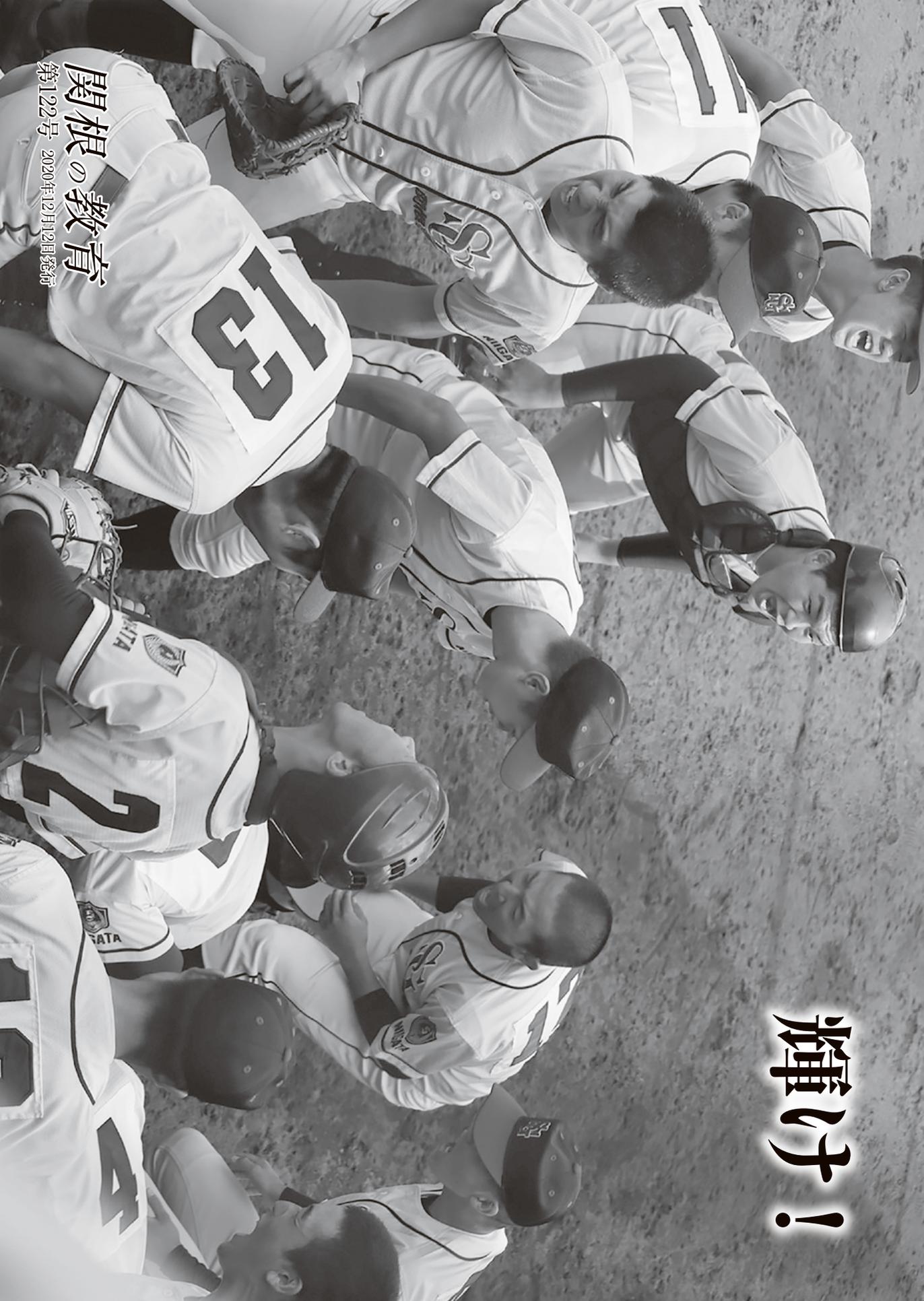
いま、年の瀬を迎え、関根学園も日々の学校生活を取り戻しつつある。この一年の中で失われたもの、その時間その場所にあるはずであった感情や熱量を追体験し、心に空いたピースを補完できる時が来るのであるだろうか。ワクワクが開発され、特効薬が見つかって、おそらくこの停止した時間は戻らないだろう。そう考えることもあった。

しかし、そう考えることすら違っていたのだ。決してあきらめではない。今を生きよう。できなかったことを何かで埋めるのではなく、動こう。時代の変化を進化の糧に。踏み出す人が、生み出す人だ。

来年はきつと、社会的にこの疫災が収束に向かつていくのだろう。その中で、関根学園は、今も未来も、生徒たちの熱や輝きの発散を受け止められる場所でありたい。生徒たちの青春を輝かせるために、我々は「関根の教育」を動詞にしていくなつともりである。

編集発行 関根学園高等学校

# 輝け！



## 関根の教育

第122号 2020年12月12日発行



# 野球部 北信越大会第3位

関根学園硬式野球部が、10月10日（土）から行われた第143回北信越地区高等学校野球大会に出場し、第3位の成績で大会を終えました。

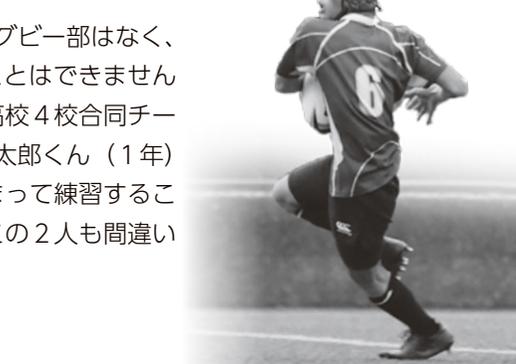
接戦の連続だった県大会を粘り強く勝ち抜き、この北信越大会では1回戦新湊高校（富山2位）に9対2、2回戦佐久長聖高校（長野1位）に7対5と勝利し、準決勝に進出しました。

準決勝では敦賀気比高校（福井1位）と対戦しました。9回裏まで1点をリードする展開で、あと1アウト、打者を2ストライクと追い込みながらも投手滝澤くん（2年）の投じたボールがはじき返され同点に。延長10回裏、ピンチをしのぎ切れず4対5でサヨナラ負けとなりました。

彼らの毎日の練習の様子、そして学校生活を見ている者にとっては、心

から野球部の健闘をたたえたい気持ちとなったはず。しかし、この大会を戦った野球部員本人たちは、達成感や手応えよりも悔しさが大きく残ったようです。

来夏、また野球部が躍動する姿を見ることを期待しています。



## 秋季大会の軌跡

### ◇ 県大会

- 2 回 戦 関根学園 7-6 長岡工業
- 3 回 戦 関根学園 4-1 帝京長岡
- 4 回 戦 関根学園 10-4 北越
- 準々決勝 関根学園 7-0 新潟工業
- 準決勝 関根学園 2-4 加茂暁星
- 第3代表決定戦 関根学園 3-2 東京学館新潟

### ◇ 北信越大会

- 1 回 戦 関根学園 9-2 新湊
- 準々決勝 関根学園 7-5 佐久長聖
- 準決勝 関根学園 4-5 敦賀気比

# 全国をめざす！

「春高」「ウィンターカップ」「選手権」「都大路」……12月以降に行われる様々な競技の全国大会です。本校の各部活動もこれら全国大会出場を目標にそれぞれの県予選に出場しました。

バレーボール部は男子、女子ともに準決勝に進出。準決勝ではそれぞれ最終セットまでもつれる接戦となるも敗れて第3位。バスケットボール部は男子が準々決勝まで勝ち進むも強豪新潟商業に敗れてベスト8で敗退しました。

バレー部、バスケット部、サッカー部、陸上部（駅伝）などの3年生は、これらの大会に3年間の集大成として挑みました。3年生として就職、進学に向けての準備と同時並行で部活動に打ち込み、“文武両道”での挑戦でした。全国という“武”の結果は満足いくものではなかったかもしれませんが、その努力が今後の人生の大きな財産になってくれるものと思います。

「花園」をめざした生徒もいました。正式なラグビー部はなく、“関根学園”というチームとして大会に出場することはできませんが、関根学園・高田高校・海洋高校・柏崎工業高校4校合同チームの一員として、勝沼雅貴くん（3年）、小栗琥太郎くん（1年）が県予選に出場しました。合同チーム全員が集まって練習することは難しく、結果も初戦敗退となりましたが、この2人も間違いなく全国をめざした高校生です。



## 美術部 妙高市美術展覧会入賞

第16回妙高市美術展覧会に美術部の7名が出品し、3名が入賞しました。星田さんは昨年度に引き続き、2年連続での入賞となりました。



◀「雨上がりの向こう」  
奨励賞 星田乃亜（2年）

- 入賞
- 青葉賞 松野柚香（2年）
- 青葉賞 川井瑠華（1年）

## 英語スピーチコンテスト

10月18日（日）に行われた「第6回 新潟県高校生英語スピーチコンテスト」で、本校の村岡穂乃香さん（1年・特進コース）が見事優秀賞を受賞しました。



「私ができるエコ - 新潟からエコを考える」という今回のテーマを受け、村岡さんは食品ロスの問題を取り上げて今日の私たちに薄れてきている“もったいない”という気持ちを再度新潟から呼び起こそうと訴えました。

村岡さんは担当の教員と毎日練習を重ね、スピーチに自分の経験を含めたり、ジェスチャーを効果的に使ったりしながらオーディエンスに分かりやすく伝えることができるよう努力していました。本番当日は、実に堂々たる素晴らしいスピーチでした。

## スポーツ大会開催！

10月23日（金）生徒会主催のスポーツ大会が実施され、全校生徒がクラス対抗でバレーボール、バドミントンの2種目で勝敗を争いました。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、体育祭、北辰祭等の生徒会行事が中止となりました。このスポーツ大会は、それら行事の代替として今年度最初の生徒会主催行事として行われました。



感染拡大防止のため様々な対策がとられ、その一環として各教室の電子黒板に体育館で行われている競技のライブ映像が配信される「リモート応援」が行われました。例年とは少し異なるスポーツ大会でしたが、久しぶりの生徒会行事とあって大変盛り上がった1日になりました。

## 上教大院生による「人間関係スキルトレーニング」講座！

9～11月の約2か月のあいだ、上越教育大学教職大学院の大学院生の学校実習が本校で行われました。その一環として、道徳・生徒指導コースの大学院生らによる「人間関係スキルトレーニング」講座が水曜関根講座（水曜7限）の特別講座として開講されました。

この講座では、構成的グループエンカウンター（SGE、リーダーが用意したエクササイズを刺激剤にして心とこころのふれあいを促進しようとする活動）を通じて、楽しみながら人間関係の心理と方法を学びました。『関根学園の良いところ発見活動』では、普段あまり意識しなかったり、良いところだとは思っていなかったことがたくさん挙げられ、改めて関根学園のさまざまな活動や仲間の良さを発見する機会となっていました。



## 就学支援金制度が大きく変わりました。

今年度から文部科学省が行う高等学校等就学支援金制度が大きく変わりました。保護者の年収が約590万円未満の生徒には授業料の全額が、910万円未満の生徒には118,800円が授業料に充てるため国から支援金が支給されます。

## 生徒募集

令和3年度

## 推薦・スポーツ専願 専願1次・併願入試

試験日 令和3年 1月19日(火)

合格発表 令和3年 1月21日(木)

## 関根学園高等学校育英奨学金

「漢検」「数検」「英検」などの有資格者は入試種別に関わらず1種及び2種が申請できます。

- 第1種 … 入学後90,000円と年額最大244,200円
- 第2種 … 入学後90,000円と年額最大122,100円

※詳しくは本校募集要項・ホームページをご覧ください。